

文字学習の指導 ～読みの学習～

言語・学習指導室 葛西ことばのテーブル
三好純太

本講の概要

- ◎日本語の音韻構造と、かな文字表記について概説する。
- ◎健常発達における、かな文字習得過程を概説する。
- ◎発達障害児を対象とした、文字学習の手法について紹介・解説する
- ◎学習については、文字のレディネス～単語音読 程度までを主な内容とする。

日本語の文字表記

●文字表記の体系

◎3種の文字による表記体系

ひらがな / カタカナ / 漢字

表音文字 表意文字

(その他) ローマ字・数字・諸記号

→文章は、漢字かな混交文での表記が原則

●ひらがなの文字種

- 清音 46文字
(「ん」「を」を含む)
 - 濁・半濁音 25文字
- 71文字
- 拗音 33文字 / 促音:小書き「っ」

●日本語の音韻構造

音素 子音(13個) /k, s, t .../
母音(5個) /a, i, u, e, o/
半母音(2個) /j, w/
* 特殊音素 促音:「き^って」 撥音:「と^んぽ」
長音:「も^うふ」

音節 基本音節: 母音 および 子音+母音
例:[a] [ka]

* 特殊音節: 撥音・促音・長音
拗音(しゃべる)
拗長音など(しゅうまい)

★日本語の音節数:約140



英語:約3000

ことばの発達と発音 第1巻
「ことばの発達入門」より

●音韻とひらがなの対応

★1音節=1文字が基本原則

[a]=あ [ka]=か

【非対応なもの】

* 特殊音節

- ・しゃかい／さとう／ぱんだ (1音節-2文字)
- ・ひよつとこ (1音節-3文字)

モーラ(拍)

■音韻的な区切りの単位。



* 日本語は拍の認識が重要(ex:俳句の五七五)

やせがえる まけるないっさ ここにあり

* 特殊音節では、音節数とモーラ数でズレ

⇒ らつは (2音節/3モーラ *3文字)

★特殊な表記形態

- 指文字: かな文字的表音記号
- 点字/キユードスピーチ:
ローマ字的表音記号
- 手話: 漢字的表意記号

《ひらがなの成立過程》

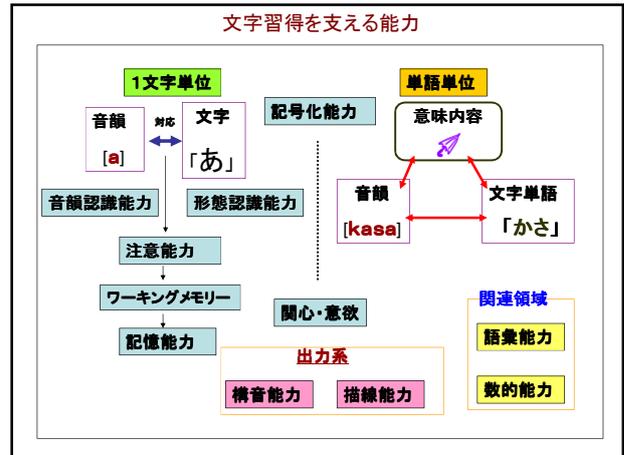
無文字時代

- 漢字の導入
- 万葉仮名の成立
- カタカナの成立
- ひらがなの成立(11世紀)
- 50音図の成立
- 濁音表記
- 特殊表記

《日本語の音韻の変遷》

- 撥音・促音・拗音 : 平安期に成立
- 長音 : 中世には成立
- ハ行音の変化 /p/ → /ɸ/ → /h/
※ 語中・語尾は /ɸ/ → /w/
- 四つ仮名 ぢ・じ/づ・ず → 中世に dʒ/dz に統一
- * 濁・半濁点の使い分けは明治期から、促音・拗音・長音の表記は、「現代かなづかい」から告示・一般化。

文字習得を支える能力



健常発達における ひらがな習得過程

国立国語研究所による
「幼児の読み書き能力調査」結果から
(1967年実施)

「幼児の読み書き能力調査」より

【 読みの水準 】

清・濁・半濁音71文字中の読字数

	0	1~5	6~20	21~59	60~71
4才児	9%	18%	20%	19%	33%
5才児	1%	5%	12%	18%	64%

外的要因) 暦年齢/性差/保育年数/地域

* 文字習得は徐々に早期化している

【 読みの傾向 】

- ◆文字による難易度
易 清音 → 濁音 → 半濁音 難
(清音文字内)
易 かみのしいひ 難 をほめはへむ
- ◆行・段による難易度
易 あ行・か行 難 は行・な行

【 誤反応の傾向 】

- ◆他の文字の読み誤り
- ◆単語・人名を言う(初期段階の子どもに多い)

* 読み誤りの傾向

- 《清音》 ①形態の類似性 (き⇒さ)
②音声学的類似性 (は⇒ほ)
- 《濁・半濁音》
清音化／濁－半濁の混乱

【 読みの習得順序 】

清音 → 濁音 → 半濁音

※濁・半濁音の習得は清音と平行

◎読字が数文字可能な段階で書字の習得が始まっている

* 読字数と習得の関連

20字前後 かな文字読み能力の形成

- ・この後、習得加速化

60字程度 特殊音節(表記)学習への区切り

- ・拾い読み→単語読みへ

【 特殊音節の読み 】

◆拗音・促音・長音とも

5才児で4割程度の習得状況

易) 促音→長音→拗音→拗長音 (難

* 誤りの傾向

逐次的読みがもっとも多い

=表記規則の理解が未形成

★基本音節の読みは短期間に進み、特殊音節の読みは遅れる傾向。

●他言語と比較した、ひらがな習得の特徴

★習得が比較的容易とされる

⇒音韻－表記の対応関係が規則的なため

* 英語圏と比較してのディスレクシアの少なさ

ことばの発達と障害 第1巻
「ことばの発達入門」第1巻より

♣教育制度の中でのひらがな学習

《日本の公教育における文字教育の変遷》

* 明治期以降



「子どものかな文字の習得過程」より

《幼児の文字学習と
小学校での国語教育の相違》

幼児の文字学習

個人差: 大
速度: ゆっくり
〈目的〉
文字レディネスの形
音声言語の向上

小学校での文字学習

個人差: 小
速度: 速い
〈目的〉
読解・作文能力育成
思考能力の育成

障害児の文字学習との
関連が大きい

● 音韻認識能力の発達

■ 音の分解

音節単位 → モーラ(拍)単位 への認識に進展

- ・基本拍は3~4才で可能
- ・撥音・長音・拗音 → 4~5才 / 促音 → 5才以降

■ 音の抽出

語頭音 → 語尾・語中音

* 文字習得との関連 大

ことばの発達と障害 第1巻
「ことばの発達入門」より

● 文字形態弁別能力の発達

■ かな文字の異同弁別

- 形態 類似性 低: 3~4才でほぼ可能
- 類似性 高: 読みの進みに従って可能となる

★ 文字の習得と音韻認識・文字形態認識は、
相乗的に向上する

「子どものかな文字の習得過程」より

● 文字習得の段階

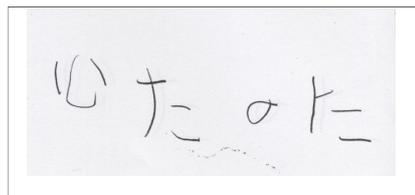
① 表現規則の理解 : でたらめ読み・疑似文字
3~4才で進展



② 対応規則の理解 : 表記の規則の習得
4才台でも不完全

ことばの発達と障害 第1巻
「ことばの発達入門」第1巻より

表現規則の理解 ◆ 擬似文字例



● 文字習得の進みにより促されるもの

- 音韻意識
- 形態認識・描線力
- 記号的認識
- 思考の高度化

文字能力の評価

● 文字習得状況の評価

■ 読み書き能力検査

- 情報収集(習得状況・関心・嗜好など)

● 基礎認知能力の評価

- 音韻認識の評価
- 文字形態弁別能力の評価
- 記憶能力の評価
- 構音状況の評価
- 語彙能力の評価
- 数概念の評価

■ 音韻認識の評価

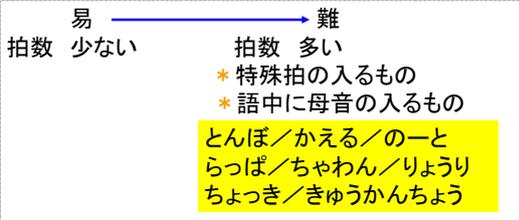
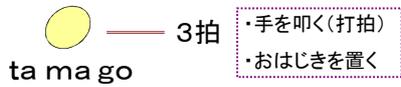
- ◆ 音韻弁別
- ◆ 音(モーラ)の分解
- ◆ 音(モーラ)の抽出
- ◆ 音の混成
- ◆ 音の消去

◆ 音韻弁別

- 復唱課題
単音 / 単語 / 文章
- 弁別課題
 - * 語音の聞き取り
 - ・「あ」っていったら手をあげて
 - ・「はっば」かな「らっば」かな

◆音の分解(モーラの分解)

*モーラ数を把握する



◆音の抽出(モーラの抽出)

*モーラ的位置を把握する



◎語頭音の抽出能力が、かな文字学習に重要

*アイスの「あ」

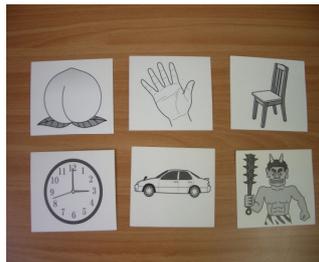
●語頭音の選択課題

「く」のつくの、どれ？

「く・・・」どれ？

「・・・ま」どれ？

「くる・・・」どれ？



◆音の混成

「た……ま……ご。なあんだ？」

↓
「たまご！」

◎単語読解の可否に重要: 逐字読みの統合

◆音の消去

「ごんべさんの赤ちゃん」

*「た」ぬきで、歌う

ごんべさんのあかちゃんがかぜひいた

■文字形態弁別能力の評価

◆同字判断

か か か か か

◆異同弁別

*形態の差 大 → 形態の差 小

かーと つーむ / ねーれ ぬーめ

*特殊表記の記号認識

さーざ ばーば ひやーひゃ

■ 記憶能力の評価

- ◆ 視覚情報の把持
 - * 図形の記銘 (ITPA「図形の記憶」課題など)
- ◆ 聴覚情報の把持
 - * 数唱 / AMS / ARS / 単語復唱
- ◆ ワーキングメモリー
 - * 同時処理課題 ウェクスラー式知能検査 など

■ 構音状況の評価

- * まず清音に対応する音が獲得されているか。
- * 5母音は、明瞭か。

■ 語彙能力の評価

- * 習得語彙の広さと深さ
- * 語頭音となる単語は習得されているか

■ 数概念の評価

- * 3までの量概念は成立しているか

文字学習の目的

発達障害児における文字学習の意義

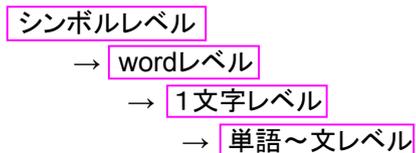
- 記号概念の習得
- 音声言語能力の向上
- 学習課題の拡大
- 伝達手段の獲得 etc

《文字学習に困難を来たすケース》

- ◇ 発達障害 (能力全般の未熟さ)
- ◇ 学習障害 (問題の要素性が強い)
- ◇ 第2外国語習得

【発達障害児における文字学習の特徴】

- ★ 障害の状況に応じた目標設定が必要



- * 理解できる / 読める / 書ける / 指せる / 打てる

文字学習の具体的方法

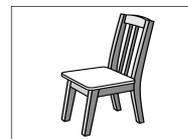
●文字レディネスの育成

●文字レディネスの育成

- 記号概念の形成
- 音韻認識の形成
- 形態弁別能力の育成
- 語彙の学習
- 構音の習得
- 注意・探索能力の育成
- 記憶能力
- ワーキングメモリー
- 数の学習

■記号概念の形成

- * 絵カードの理解
→ 概念を象徴／語意味の抽象化



■音韻認識の形成

- * 音の弁別
- * モーラの分解
- * モーラの抽出

■音韻認識の練習 語頭音の認識

学習例

語頭音の認識練習

P〜のつく ことばは どれかな？

※それぞれのことばの、初めの音だけを聞いて、ことばをあてる練習です。

製作教材「ひらがな学習カード：清音編」収録

■音韻認識の練習 拍(モーラ)の認識

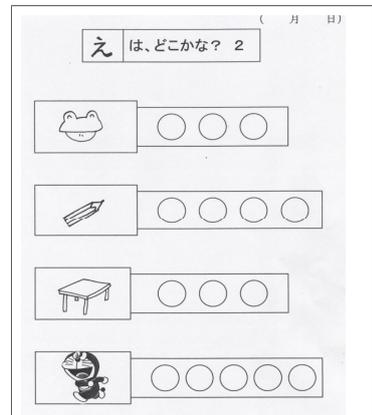
学習例



製作教材「ひらがな学習カード:清音編」収録

■音韻認識の練習
音の抽出

学習例



■形態弁別能力の育成

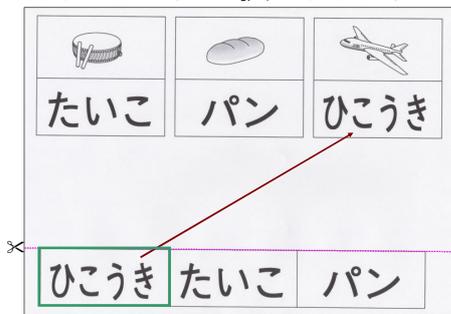
- * 文字マッチング
- * 重なり文字の判別

* 文字マッチング



* 文字マッチング

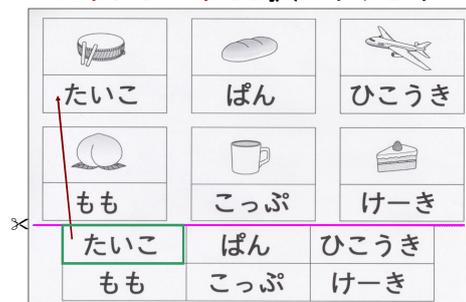
カットワーク: 3択マッチング



製作教材「ひらがな学習カード:清音編」収録

* 文字マッチング

カットワーク: 6択マッチング



製作教材「ひらがな学習カード:清音編」収録

*** 文字マッチング**
ネットワーク: 形態類似単語

		
くち	くつ	くも
		
いす	いぬ	いか

※

くち	くつ	くも
いす	いぬ	いか

製作教材「ひらがな学習カード:清音編」収録

*** 文字マッチング**
ネットワーク: 対応づけ

		
たいこ	パン	ひこうき

※

ひこうき	たいこ	パン
------	-----	----

製作教材「ひらがな学習カード:清音編」収録

*** 重なり文字の判別**

焼

①

②

③

■ 語彙の学習

- * キーワードで使用する単語の習得
⇒「あ」～「わ」を語頭音とする語
- * 語彙の拡大
広さと深さ ⇒ 抽象的概念の育成

■ 構音の習得

- * 単音～単語レベルでの構音の完成

■ 注意・探索能力の育成

- * 目標刺激への
フォーカスのトレーニング

文字レディネスの学習

↓
さまざまなトレーニングを、
文字学習と平行して実施

●有縁記号の学習

■マーク・絵記号の学習

■漢字の学習

■マーク・絵記号の学習

* 関心のあるロゴや標識などを素材とする



■マーク・絵記号の学習 日常運用例



■漢字の学習

* 図像性の高い単語から学習

山 雨 口 川

●ひらがなの学習 ～読みの習得～

●ひらがなの学習 **学習の段階**

Word 単位での学習 : 文字単語と意味内容の対応づけ

ひらがな1文字の学習 : 清音 ⇒ 濁・半濁音

ひらがな単語の音読・読解 : 清音・濁音の2~3文字単語

ひらがな特殊表記の学習 : 拗音 / 促音 / 長音 / 拗長音
助詞「を」「は」「へ」

●ひらがなの学習 **Word 単位での学習**

文字単語と意味内容の対応づけ

目的 ①ひらがな学習の導入として
②限定されたコミュニケーション手段として
③聴覚入力に比較して、視覚的入力が優位

開始条件 ①文字単語の形態弁別が可能
②学習する単語の意味理解が必要

方法 多種の文字ひらがな漢字カタカナを素材とする
⇒ 弁別・対応づけをしやすくするため

Word 単位での学習 **学習例**



●ひらがなの学習 **Word 単位での学習**

※ 二重規則への拘泥に注意
⇒ 単語の選定が必要

* このレベルまでを、達成目標とする場合もあり

●ひらがなの学習 **かな1文字の学習**

清音の学習

清音1文字学習 開始にあたって

- * 1文字単位での文字形態弁別能力
- * 1音節単位での音韻弁別能力
- * 語頭音の音韻抽出能力
- * 文字への興味・関心
- * 単語レベル以上の言語理解力
- * マッチング課題の理解・遂行能力

以上のような能力があること、が望ましい

● ひらがなの学習

清音1文字の学習方法

- 50音表マトリクス法
- キーワード法
- 1文字単語法
- 多感覚法
- 音声法
- 連想法

制作教材例 「ひらがな学習カード:清音編」

- 構成)
- 音韻認識練習
 - 文字マッチング練習
 - 文字単語カード
 - 各行マッチング練習
 - 各行カード
 - 50音表
 - 1文字カード
 - 文字配列枠
 - 予備カード

● 文字単語カード (■ キーワード法)

文字単語を用いた

1音-1文字対応の抽出学習

■ キーワード法 学習方法

①文字単語と絵カード
(音声+意味内容)のマッチング

↓
②単語の語頭音と文字列の先頭
文字の対応づけ(音・文字の抽出)

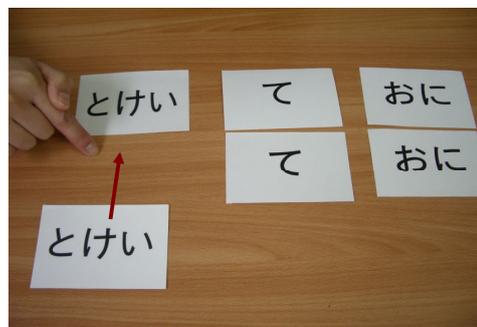
↓
③語中・語尾の音-文字の対応
づけ

準備: キーワード語頭音の把握を確認

「と・〇・〇(無音)」
どれ?



準備: キーワード単語の形態把握を確認



カードの表面と裏面



文字単語と事物名称の連合

「とけい」は、これ。

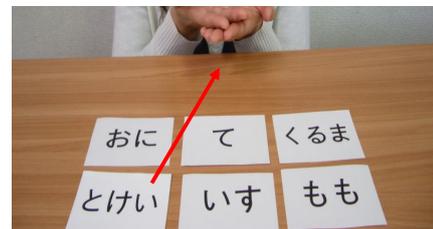


小文字との対応



文字単語と事物名称との対応

「とけい」
ちょうだい！



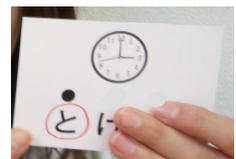
文字単語の呼称

これ、
なに？

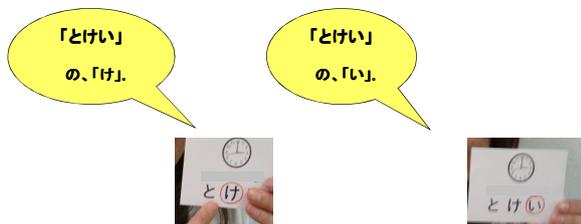
とけい

語頭音の抽出と語頭文字の対応

とけいの、
「と」



語中・語尾文字と音との対応



1文字カードでの呼称



■ キーワード法

適応

- * キーワードの理解が必要
- * **語頭音**の抽出能力が必要
- * **語頭音**の構音産生が可能なことが望ましい

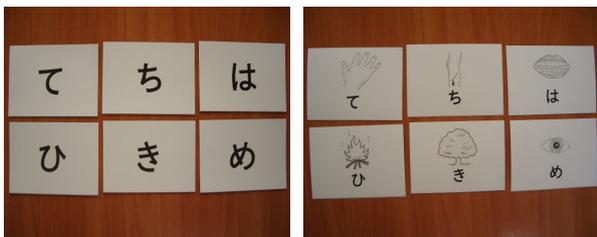
- ◎ wordレベル学習からの進展が可能
- ✕ 音韻認識に未熟さが強い場合は難しい

■ 1文字単語法

1文字単語のキーワードと音との対応学習

■ 1文字単語法

学習例



カード表面

カード裏面

■ 1文字単語法

適応

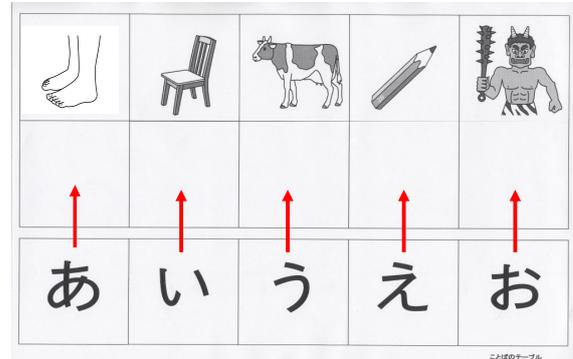
- * キーワードの理解が、必要
- * **目標文字**の構音産生が可能なことが望ましい

- ◎ 初期導入として有効
- △ 単語呼称段階に留まっていることあり

■各行法

50音各行の系列唱と
キーワードを組み合わせた学習

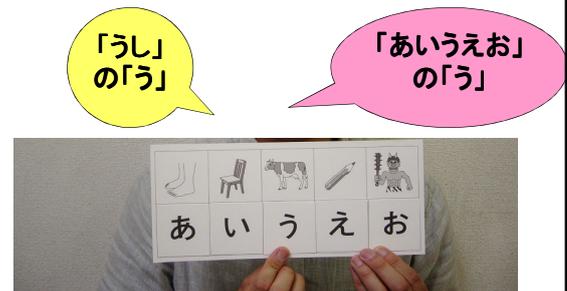
■各行法 教材例 各行マッチング



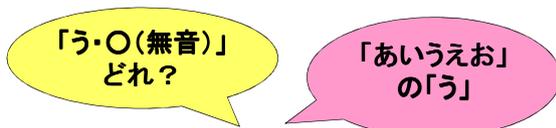
キーワード+行系列での文字の配置



あ行系列唱とキーワード対応



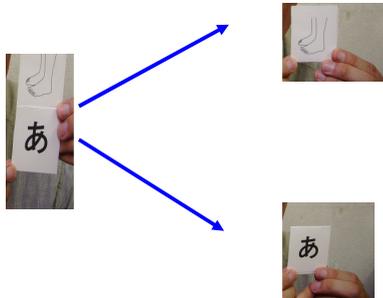
文字の選択 絵+1文字カード使用



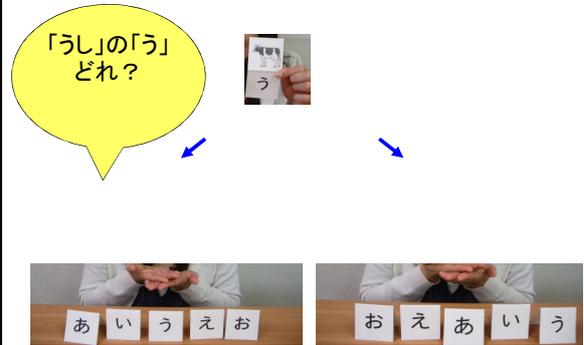
文字の呼称(音読)



文字と絵(キーワード)の確認



文字の選択



■ 各行法

適応

- * キーワードの理解が、ある程度必要
- * **語頭音**の抽出能力が、ある程度必要
- * **語頭音**の構音産生が可能なことが望ましい

◎ 系列への嗜好(志向)を利用

■ 50音表マトリクス法

50音表の系列唱を用いての学習

■ 50音表

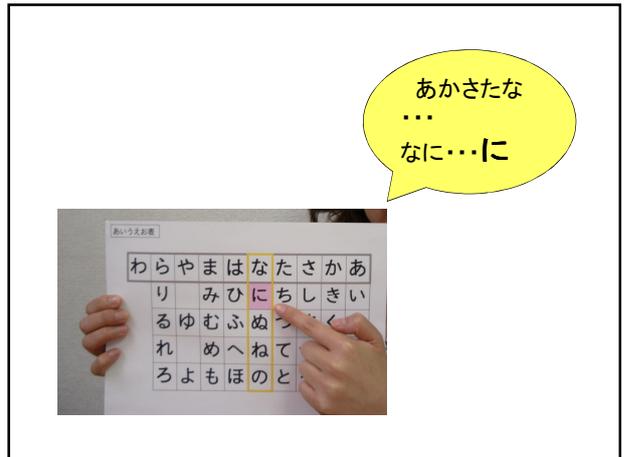
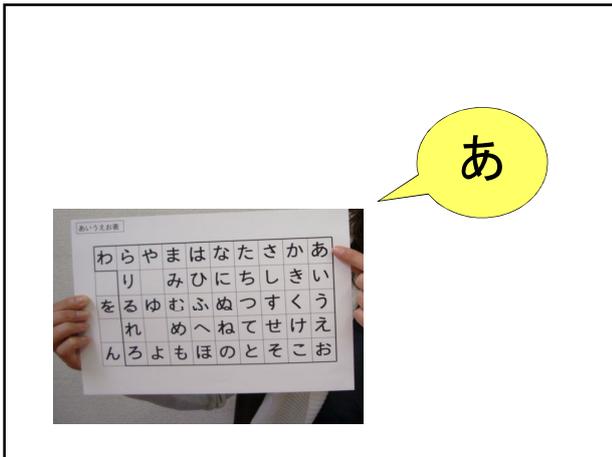
あいうえお表

わ	ら	や	ま	は	な	た	さ	か	あ
	り		み	ひ	に	ち	し	き	い
を	る	ゆ	む	ふ	ぬ	つ	す	く	う
	れ		め	へ	ね	て	せ	け	え
ん	ろ	よ	も	ほ	の	と	そ	こ	お

マトリクス「に」探索

あいうえお表

わ	ら	や	ま	は	な	た	さ	か	あ
	り		み	ひ	に	ち	し	き	い
を	る	ゆ	む	ふ	ぬ	つ	す	く	う
	れ		め	へ	ね	て	せ	け	え
ん	ろ	よ	も	ほ	の	と	そ	こ	お



■ 50音表マトリクス法

適応

- * 50音表の系列唱がある程度、可能
- * 音の抽出能力の成熟が必要

◎ 効率的・迅速な学習が可能
 ✕ 能力に未熟さが強い場合は概ね、困難

⇒ かな文字習得がある程度進んだ段階から効力

50音表／キーワード法／各行法 ／1文字単語法の同時学習

■ 音声法

文字と音声情報(音韻／口形など)の連合

※ 音声習得のための媒介として
文字を利用する場合もあり

■ 音声法 顔イラストと文字の対応

あ い う え お

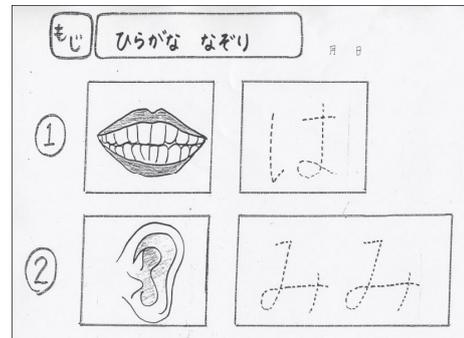
こころのグループ

■多感覚法

運動覚・触覚など多種の感覚モダリティを用いた学習

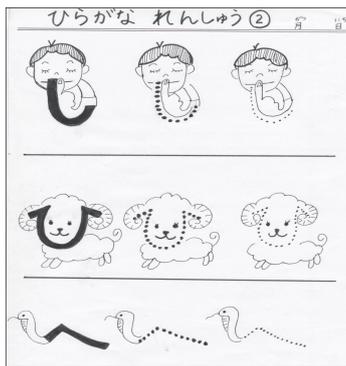
- * なぞりがき
- * 粘土文字
- * 身体運動による文字

■多感覚法 なぞりがき



■連想法 意味的関連づけによる学習

★学習例



濁音・半濁音・特殊表記の学習

濁音・半濁音・特殊表記の学習

* 清音習得と異なる特色

- 音素文字的特徴の理解
- 文字のユニット認識
- 統語の認識
- 語彙知識が重要

濁音・半濁音・特殊表記の学習: ★清音習得と異なる特色

■ 音素文字的特徴の理解

1音節 = 1文字非対応

⇔ 音節文字 (例; あいうえお)

◇ 音声学的性質への認識

◇ 法則的な文字使用への理解

濁音・半濁音・特殊表記の学習: ★清音習得と異なる特色

■文字のユニット認識

補助符号(濁・半濁点)

小書き文字(促音「っ」、拗音「ゃゆよ」)ex)

ちゃわん / はっば

濁音・半濁音・特殊表記の学習: ★清音習得と異なる特色

■統語の認識

助詞「は」「へ」「を」の運用

濁音・半濁音・特殊表記の学習: ★清音習得と異なる特色

■語彙知識が重要

例) 長音 そうじき

so u dʒi ki ...

あ、「そーじき」だ。こう書くのか...

濁音・半濁音・特殊表記の学習:

共通する学習

- ◆文字への気づき
- ◆音声学的性質への気づき
- ◆文字のユニット認識
- ◆書字学習との並行

濁音・半濁音の学習

■濁音表

■キーワード法

■対比法

■有声子音⇔無声子音

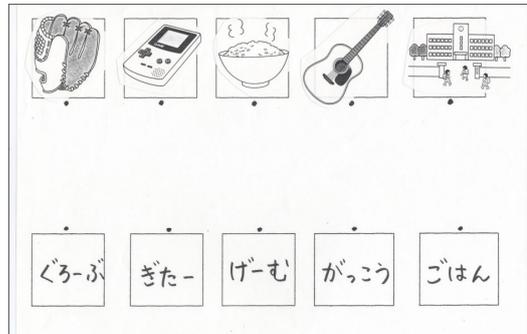
ka-ga / sa-dza
ta-da / ha-ba-pa

*濁音・半濁音の習得

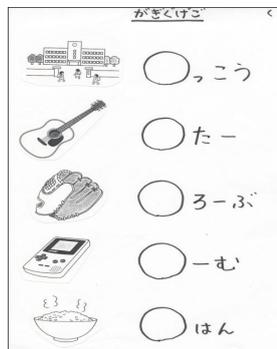


同類音としての認識が重要

■キーワード法: 語頭音単語との連合



■ キーワード法: 書字学習との平行



■ 対比法

か — が

はーばーば



■ 対比法

か — が

はーばーば

き — き

ひーびーび

く — く

ふーぶーぶ

け — け

へーべーべ

こ — こ

ほーぼーぼ

特殊表記の学習

- * 単語読みがある程度進んだ時点で開始
→ 複数文字や小書き文字の **ユニット認識** が必要
ex) **ち**ゃわん / は**っ**ぱ
- * 音韻意識の形成・構音産生が重要
モーラ(拍)の認識
- * 学習順序の問題

特殊表記の学習

小書き文字とのユニット認識

動作・記号キューによる把握

- ◆ 促音の学習: 音声停止(呼気閉鎖)の性質の把握・産生
- ◆ 拗音の学習: 子音-半母音合成の性質の把握・産生
- ◆ 長音の学習: お列長音→「う」、え列→「い」表記の習得 * 語彙理解が重要
- ◆ 撥音の学習:

<学習の手法>

○体系的プログラムとして

天野らによる「学習障害児に対する言語・認知発達教育プログラム」(1995)

- * 図形などを用いた特殊音節の自覚形成 (各特殊表記のモデル構成)

音韻認識(抽出・同定) → 表記の学習

特殊表記の
モデル構成

文字ユニットの探索

ぎ	つ	た	ぎ	や	ま	る	
ち	ゆ	み	と	よ	に	ぎ	り
お	ぎ	き	ん	ぎ	ば	あ	
な	ひ	よ	ぎ	ら	わ	い	ぎ
ぎ	ち	も	ぎ	に	ぎ	こ	
ぎ	ば	て	う	ぎ	え	ぎ	

よんでみよう!

- きんづ
- きんぶ
- きんづ
- きんづ
- きんづ
- きんづ
- きんづ
- きんづ

拗音の学習

- 拗音表
- キーワード法
- 系列法

■ 子音+半母音

ki + ya → kja
si + yo → sjo

* 同類音としての認識が重要

- ① 拗音 きや・しゆ・ちよ
- ② 子音 ちや・ちゆ・ちよ

拗音の学習: 単語中での探索

「きよ」はどこかな? A

みつけて□て、かこもう

きようりゅう おにぎり

さかみち どうきよ

らっきよ けんきよ

きねんきって きよしつ

まんげきよ きよだい

ぜんぶで()

■ 対比法

き	や	
き	ゆ	
き	よ	

きや—しゃ—ちや

促音の学習

- 呼気停止(1拍の間)
- 表記からの気づき
- * 同類音としての認識
- フットによる練習

ki Q te
ko Q pu

どこがへんかな?
きて こぶ ろけと

おも しろ かつ た
なつ やす み

* 2拍をひとまとまりで言う(読む)

長音の学習

おかあさん

きいろ

くうき

せいと

え列 → 「い」表記

そうじ

お列 → 「う」表記

カード

ケーキ

カタカナ表記の長音記号の理解

■音声持続(1拍の伸ばし)

so:da

ke:to

漢語の語彙知識の必要

表記規則の理解

どこがへんかな？

カド サッカ ケキ

単語の音読解

※一定数の清音習得後に開始

* 拾い読み → 単語読み
文字一音変換の高速化
音の混成能力が重要

「た…ぬ…き…、あ、たぬき だ！」

* 縦書き・横書きの表記規則の理解

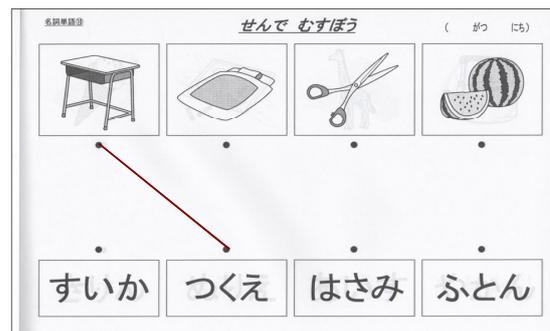
単語の音読解

○ 読字可能な文字で構成された
単語読解を進める

→ 呼称としての文字から、
記号生成としての文字への認識へ

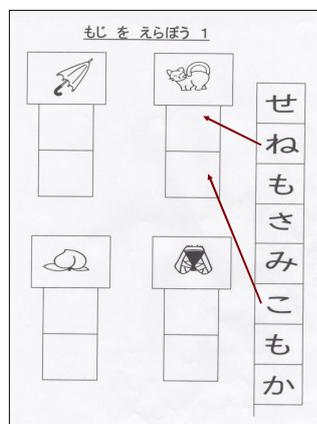
※ 表出(書字もしくは文字配列)学習と
平行できれば効果的

単語の音読解



100枚プリント「ひらがな読解ワーク」より

単語の 文字配列



📖 指導事例

* 複数の手法を組み合わせて用いている
場合が多い

ワードレベル
キーワード法
1文字単語
各行法
50音表 → 習得へ

📖 指導事例

A 習得困難例

指導ケース中での割合は少ない

B 習得不完全例

習得困難ケースの持つ問題点の例

知的水準
構音不明瞭
形態弁別能力の未熟
語音弁別能力の未熟 など

C 習得例

小学校3年生頃までに、ある程度の習得が得られている場合が多い

習得困難ケースの状況

word レベルまでの到達が多い

習得例

ケース1

書字からの情報が有効だったケース

【文字学習における考え方】

* 学習開始の判断が難しい → レディネスの個人差が大きい

↓
まず、トライアルとして学習を始めてみる

- ◆ ルートの模索： 課題継続と転換の判断が重要
- ◆ 関心を高める： 関心の持てる学習素材を検討
⇔ 苦手意識を作らない
- ◆ 学習のタイミング： 暗記能力の高い時期が効果的

* 文字習得のマイナス効果も配慮

例) 構音への影響

→ 声門破裂音の出現 / 誤り音の固定化

おわりに

☀️ なぜ文字を学ぶのか

◆ 母国語表記の獲得

◆ 母国語音声の習熟 ~ 音韻体系・発音方法

-
- 📖 コミュニケーション手段として
 - 📖 文化の伝達
 - 📖 思考の高度化

☀ 発達障害児にとっての文字とは

📖 コミュニケーションのために

- * 自閉症

→文字を仲介としたやりとりの親近性

📖 QOLのために

- * 一生を通じた学習の素材として

- * 読む楽しみのために

- * 文字が読めるという自信

参考図書

- 「ことばの発達と障害」第1巻～第3巻 大修館書店
- 「幼児の読み書き能力調査」国立国語研究所
- 「子どものかな文字の習得過程」秋山書店
- 「学習障害児に対する言語・認知発達教育プログラム」
- 「子どもたちの言語獲得」大修館書店
- 「言語発達遅滞訓練ガイド」医学書院
- 「学習障害」ブレーン出版
- 「言語聴覚療法臨床マニュアル」協同医書出版社
- 「脳のメモ帳 ワーキングメモリー」新曜社
- 「発達の遅れがある子どもの国語」学研
- 「日本語の誕生」岩波新書
- 「日本語の歴史」放送大学テキスト
- 「日本語教育ガイドブック」ひつじ書房
- 「子供のための日本語教育」アルク その他